

公衆衛生学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 菱田朝陽
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

疫学・臨床疫学研究のデザインができる。
データの質について評価ができる。
疫学・臨床疫学研究のデータを分析・解釈できる。
統計学を研究に応用できる。
疫学・臨床疫学研究における倫理的な事項を理解し、倫理に則り研究を遂行できる。

(2) 学修の到達目標

- ① バイアスを除いた形で疫学・臨床疫学研究のデザインができる。
- ② いくつかの研究デザインの得失を正しく評価できる。
- ③ データの質を評価でき、それに応じた分析ができる。
- ④ 統計学の手法をデータの分析に適切に応用できる。
- ⑤ 分析結果を科学的に解釈できる。
- ⑥ 疫学・臨床疫学研究において生じる、倫理的な問題を説明できる。

3 授業内容

【講義】	公衆衛生学の基本的な方法論である疫学・臨床疫学的方法論，地域および職域における健康管理論について講義を行う。
【演習】	実際に疫学・臨床疫学の研究計画を立案する過程を，少人数討論を通じて実践する。この過程で，講義の復習する，必要事項を調べるなど，自主的な学習も行う。
【実験研究】	演習で立案した研究計画に基づいて，実際にデータの収集（既存データの場合は必要なデータの出力），データの分析，結果の解釈を行い，論文化する。

4 成績評価の方法・基準

演習や実験研究における討論を通じて，知識や技能，研究に対する姿勢を評価する。
さらに，受講態度，授業での発表，提出物等を組み合わせ，複合的に評価する。

5 教科書・参考図書

特に指定しない。

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

卒前教育などを通じて既に習得している知識・技能によるが, 予習・復習・検索・プレゼンテーションの準備などを合わせて, 平均週 5-6 時間が必要。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

必要な知識の講義, 演習・実験研究を通じて, 実際の研究計画立案, 研究実施, 論文作成を行い, 学位論文を作成する。学習目標に到達していないと, この過程をこなすことができない。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

演習・実験研究の討論の時に, 次回までの課題を与え, 次回にはその課題の報告に基づいて討論を行うという形で進める。討論がそのまま, フィードバックとなる。

9 履修上の留意点

パーソナル・コンピューターの WORD, EXCEL を常時使用するので, これら(もしくはこれらに代わるソフトウェア)を使用できることを前提にして授業を行う。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	菱田朝陽	月	16:00~17:00	研究棟 372 号室	メールにて 要事前連絡
		火	16:00~17:00		

※質問等については, 講義終了後、又はEmail(a-hishida@aichi-med-u.ac.jp)で問い合わせすること。